

避難先を東京都東村山市の救護施設に受け入れをお願いしました。

未だに続く余震と予断を許さない原発事故、利用者や職員の心身の負担も大きいですが、当施設では、皆が協力して今回の震災を乗り切れるよう努力しています。

<小規模多機能型就労継続支援B型 虹のかけはし>

この度の東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。一日でも早い復興を心よりお祈り申し上げます。

震災当日、虹のかけはしでは心待ちにしていた外食日でした。2チームが販売を兼ねた外食の為車で外へ出掛け、1チームが虹のかけはしに残り近場での外食を行いました。その為、14時46分をそれぞれが別々な場所で迎える形となりました。緊急地震速報の音が鳴ると、直ぐに地震が来、収まったかと思えばさらに強まり、「大丈夫だよ」「大丈夫だから」と何度言葉に出したか、心の中で繰り返したか分かりません。揺れが収まって、また余震。その様な中でも、用事で立ち寄ったやしおみ荘の前庭にて被災した涙を流す利用者に対して、自分も恐怖心があるだろうに慰めようと手作りの草履をくれたやしおみ荘の利用者の方の気持ちに、心から勇気をもらいました。

虹のかけはしの別なチームの安否が知りたいと、何度携帯電話の発信ボタンを押しても繋がらず、無事をただ祈る事しか出来ませんでした。また、職員一人ひとりが「一緒にいる利用者を守らなければならない」と、自分を信じて動きました。今思うと、利用者が共にいたからこそ、強く在れたのではないかと想います。「一秒でも早く皆に逢いたい」その一心で、利用者も再会までの間頑張る事が出来たのだと想います。連絡が取れぬ中、信号も消え道路も陥没した状態の中を走って虹のかけはしに戻るや否や、津波が来るので高台に避難する様促され、涙を流す利用者を抱っこしては誘導してくれた方もいました。高台では虹のかけはしに残っていたメンバーと無事に合流でき、ホッとする事ができました。高台から津波が見えるとの事で、海の方を見るとかなりの距離があるにも関わらず、真っ白な飛沫が見えました。今思えば、それが何万人もの人の命を奪ってしまうものになるとは、その時点では想像する事すら出来ませんでした。また、何の情報も無い中、この様な大規模な災害になるとは思いもせず、ただ今を生きる事で精一杯でした。この日は、夜中になってしまいましたが、利用者・保護者・職員が全員無事で再会し、利用者をも保護者の元へ送り届ける事が出来ました。

余震や地震後に起きた原発事故の状態を懸念し、当面の間利用者は自宅待機を余儀なくされました。地震発生直後は、食べ物や飲み物がなかなか手に入らず、法人内の利用者も困っているとの声私達の元へ届きました。私達の力で出来る事は何かと考えた時、それは共に生きる為一人でも多くの人に、パンを通しての幸せを届ける事だと想いました。店頭販売を行い、何度も頭を下げてパンを購入していく地域住民の姿を目の当たりにしました。その姿を通して、地震に負けずに普段と変わらずいつでも

パンを購入出来る安心感のある場所であり続け、希望でありたいと強く想い、力をもらいました。災害を生き抜いて出逢った方々の「ありがとう」の言葉には、生きる為に自分に出来る事を精一杯やろうと強く志を新にしたと同時に勇気をもらいました。

断水・停電・物資不足等、3月11日を境に私達の生活環境は一変しました。今までどれだけ恵まれた環境にいたか、普通の生活は決して「当たり前」ではなく「幸せ」だったのだと知りました。そして、利用者が出動出来ない環境の中で、利用者と共に働ける幸せを身を持って思い知らされました。

4月からは、時間を短縮してではありますが、利用者が無事に出勤を再開しました。皆に逢えない日々はつまらなかったとの言葉が利用者から聞かれ、利用者・保護者・職員が「再開」を強く願った事で「再会」が実現出来たのだと想いました。これからも、共に働ける喜びを噛み締めながら、一日一日を利用者・保護者・職員共に支え合い前へ進んでいこうと想います。

<ヘルパーステーション あくていぶ>

震災発生時は5件のサービスを提供中でした。連絡の取れぬ中、各ヘルパーの判断のもと、利用者の方々・ヘルパー共に、事故・怪我無く自宅へ戻る事が出来ました。

その後は、ライフラインや原発の問題があり、利用者の方々・ヘルパー共に、避難を余儀なくされた方も多数おられました。避難所へ身を寄せた方も含む单身の方や、通院を必要とする方を中心にサービス提供を続けました。道路状況も悪く、水が出ない・食料が無い・スーパーが開かない・病院・薬局が閉まっているといった状況が続き、ガソリンが無いことから、いつも通りのサービス提供とはいかず、何とかサービス提供が出来ても、買物・通院・処方薬を受け取る等何をするにも時間が掛かり、利用者の方々に負担が掛かる状況でした。

様々な問題の中、安全を第一に考えながら、サービス提供を行っておりますが、公共施設等が復旧していないことから、行先と安全の確保が出来るまで、移動支援等をご利用頂いているの方々には、サービスを提供出来ない事も多く、ご迷惑をおかけしております。

居宅介護・移動支援とも、ライフラインが整い安全の確保が出来次第、すぐにサービス提供が出来るよう、ヘルパー共々体制を整えております。

未だ、原発問題は不安定で余震も続いておりますが、一日も早い復旧・復興がなされ、安心して安全なサービス提供が出来ることを心から願っております。

<小規模多機能型就労継続支援B型 天真庵>

各地に未曾有の災害をもたらした、それは後に「東日本大震災」と呼ばれ、天真庵の利用者、職員にとっても、余りに突然の出来事でした。長く続いた揺れに高い場所に置いてあった食器類は次々と落下。丁度、休憩時間を終え、厨房内で1日の終わりの後片付けに取り組んでいた時間帯です。今にして思えば、全員が一箇所に集まっ